

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873100929		
法人名	有限会社大樹		
事業所名	グループホーム大樹 1号館		
所在地	茨城県東茨城郡茨城町越安1993		
自己評価作成日	平成30年1月5日	評価結果市町村受理日	平成30年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0873100929-008&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2		
訪問調査日	平成30年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自然豊かな環境の中でその人らしさを大切にできているかと、職員間で日常的に話し合い、共有出来ていると感じている。 ・開設以来インフルエンザ等の感染症を事業所内で発症させておらず、今後も維持できるよう努めていきたい。 ・理念に合わない対応があった場合は職員間でお互い注意出来る関係が目標である。 ・御家族、友人、親戚等の面会が頻繁にあり、利用者への想いを日々感じて介護に従事出来る事。 ・代表者が無農薬野菜や米等を栽培し、食卓に提供し食の安全に努めている。 ・利用者の個室は全室南向きになっていて日当たりは良く、真冬でも日中は暖かく過ごしやすい環境である。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地元の高齢化が進む中で在宅介護の大変さを痛感し、地域の役に立ちたいとの思いで平成15年に事業開始した2ユニットの和やかな雰囲気のあるホームである。法人の代表が地域住民であり、地区役員を引き受け積極的に地域活動をする事でホームの利用者も地域の住民と顔見知りの親しい関係が出来ている。</p> <p>遠方から来る家族の送り迎えをしたり、家族が泊まれる和室を設けてホームに来やすい環境を整え、家族と何時でもつながれる安心感のあるホームづくりをしており、退所者の家族で三線の専門家が沖縄の伝統歌謡を披露して利用者や家族、地域の方々を楽しませてくれる等、家族とは親密な関係がつけられている。</p> <p>どの居室からもウッドデッキに出られるような開放的な造りで、日々豊かな自然が眺められ、花の好きな利用者はウッドデッキで鉢花を育てる等、一人ひとりが趣味や役割を持ち誇りある暮らしを楽しんでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護をして行く上で理念を基本とした介護が最も大切であり理念にあわない対応があった場合は職員間で注意し、理念を再確認した上で取り組んでいる	平成15年の開設時に作成された理念は、一人ひとりの人格の尊重や安心と信頼の介護、地域に密着した生活などを謳っており、地域密着型サービスの意義を踏まえたものである。全職員は常に理念を意識しながら利用者一人ひとりの性格の特徴に寄り添い、その人らしく誇りある暮らしができるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所周辺は地域の方の花や野菜畑が多く、日常的に顔を合わせる事も多く、散歩の際などは花や野菜など頂いたりしている	法人の代表は地区内に住み、地域の草刈りや芝焼きの行事に率先して参加しており、地域の方々がボランティアでホームを訪れたり、高齢者ケアについての相談を受けたりとお互いに助け合いながら地域の一員としての交流をしている。利用者の散歩中には挨拶を交わし、お花をプレゼントされる等、地域の方々とは顔見知りの関係にあり親しいお付き合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域内の利用者様が入居されている際、近隣の友人知人が定期的に面会に来てくださり、ホームの取り組みや支援を理解して頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の区長、民生員、老人会長、家族の代表、町福祉課の方より参加を頂き、ホームの取り組み内容を報告し、意見を参考に進めている 2ヶ月に1回実施している	家族や区長、民生委員、老人会会長、町役場職員などの参加を得て2ヶ月に1回偶数月に開催している。会議ではホームの実情や活動状況を伝えると同時に、地域の情報や行政からの情報などを得ている。民生委員などの地域からの出席者からは介護に関する様々な相談を受けることも多く、運営推進会議は地域とホームをつなぐ良い機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の手続きや事業推進にあたり、町の担当者や電話や往来する等、連携を取りながらすすめている 2ヶ月に1回運営推進会議に出席いただきケアの取り組み、現況を伝え理解を得られるよう取り組んでいる	運営推進会議をととしてホームの活動状況などは丁寧に伝えており、ホームにおける対応困難事例の相談をしたり、小学生の職場見学の受け入れや障がい者の仕事体験を受け入れる等、町との協力関係構築に積極的に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束は行わない」また身体拘束ゼロを目指す全ての職員が認識し介護にあたっている なお玄関に身体拘束排除宣言書を作成し表示している また日中は玄関等にも鍵を掛ける事はせず見守りをしながら、当たり前の自由な暮らしが出来るよう支援している	身体拘束についてのマニュアルを備えて、ケアに困難が生じる毎に話し合いを繰り返し、全職員が身体拘束についての正しい知識を身につけ拘束のないケアを当たり前の事として日々のケアに取り組んでいる。新入職員へは入職時に、拘束による弊害等も含めて拘束について正しく理解できるような研修をして、全職員が身体拘束についての知識を正しく理解できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のポスターを掲示して、全職員が理解し、意識を高め虐待が見過ごされないよう努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対応が必要な場合には関係者に相談できる体制を取っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項を説明し事業所で出来る事を明確に説明する ご家族からの疑問点を引き出し急変時または重度化について説明し同意を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満や苦情等は日頃から対話を重ね聞き出せるよう努めている またご家族にも苦情、要望等が気軽に出せるよう意見箱を設置している 面会に来られた際には必ず意見や要望等を聴くようにしている	家族には3ヶ月に1回『大樹便り』を発行して利用者の近況を知らせたり、面会時には丁寧に近況を知らせ、ホームを身近に感じて頂けるような工夫をして気軽に話せる雰囲気づくりを心掛けている。家族会はないが、年に1回は家族が一堂に会せるような機会作りをしている。	3ヶ月に1回発行する『大樹便り』には利用者の写真などを掲載し、見て楽しいものになってはいるが、余白の部分にホームの今後の行事予定や運営推進会議の開催日などを知らせる等の工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを取り、日々の業務の中でも職員の提案を聞く時間を設けている	開設当初からの職員など勤務年数の長い職員が多く、職員それぞれは「ホームをより良くしたい」との思いが強い。常に各人が備品・消耗品に注意を払い、食事作りなどに真剣に取り組んでおり、日々気づきを管理者や法人の代表に伝え、備品購入などホームの運営に積極的に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も現場に入り職員一人ひとりの日々の努力を把握しており資格取得の支援に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修に参加する機会を作っている 参加した職員はホーム内にて勉強会を行い全職員で情報の共有をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会、ケアマネージャー協会に加入し会合等で良い点、改善点等話し合う機会を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今現在何が不安なのかご本人の思いと希望を真剣に受け止め、安心して日常生活を送れるよう個別にコミュニケーションを図り、関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立ち求めているものの理解に努め、家族の思いを受け止める努力をし、事業所としてどのような対応が出来るか話し合っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所として本人や家族の思い、状況等を確認し出来る限りの対応に努めている また出来ない事は事業所だけで抱え込まず必要に応じて他のサービス機関につなげ早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩でもあり日常生活の中で学ぶことも多々ある中で、洗濯物を干したり、洗濯たたみ、食事の準備、片付けなど共に支え合う信頼関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご家族が利用者への面会のみで終わるのではなく、外食をしたり買い物をしたりと家族の時間を作っていただいている お盆、正月など自宅への外泊、外出により家族に見守られているという関係を築きながら共に支えていく関係を大事にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や馴染みの方がいつでも気軽に来訪出来るよう事業所内での雰囲気作りに努め、面会時にはお茶を飲みながら楽しく過ごせる時間を支援している	利用開始以前の近所の友人や兄弟・孫家族が度々訪れており、繰り返し訪問頂けるように居心地の良い雰囲気づくりを心掛けている。利用者の希望を聞きながら外出先を決めており、馴染みの店に買い物に出かけたり、家族の協力を得てお墓参りや孫の結婚式に参列して懐かしい方々にお会いしたりする機会を多くしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置を工夫したり、ソファに職員も座りコミュニケーションを図りながら、お互いが支えあえるよう支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても利用者のその後の経過などを聞いたり、相談にも応じ関係性を断ち切ることなく大切にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの人格を尊重し、現状を把握して援助が出来るよう努めている	一人ひとりの思いや暮らし方への希望は利用開始時に本人や家族からの聴き取り「新聞や雑誌を見ながらこれまでの楽しみ事を出来るだけ多く残した暮らし方を望む」などの意向は把握しており、日々変化する思いなどは表情や行動を丁寧に観察して経過記録(ケース記録)や申し送りノートに気付きとして書き止め、毎月の会議やカンファレンス時に職員間で本人本位の検討をして把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に生活歴等をご本人、ご家族より聞き、職員が把握し本人のこれまでの馴染みの暮らし方が継続出来るよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの出来る事出来ないことを把握し細かい点に配慮しながら、その時の利用者の状態や気持ちを理解して支援に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者がその人らしく暮らせるようご本人や、ご家族の要望と医療関係者の意見を踏まえ、介護計画作成にあたっている また実現可能な計画になるよう担当者会議でモニタリングや課題となる項目を話し合っている	本人や家族の希望を聴き、職員の気付きなども取り入れながら日々の暮らしに反映できる丁寧な介護計画が作成されている。課題整理総括表を用いて3ヶ月に1回モニタリングを実施し、利用者それぞれの課題について話し合いをしており、必要に応じて随時の見直しが行われている。定期的実施されるアセスメントは生活全般にわたっており、利用者の現状を正確に把握でき介護計画作成に資するものとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の利用者の訴えや暮らしぶりを個別に記録し、食事量・水分・排泄状況をチェックし全職員が把握できるようにしている また申し送りノート等で個別の情報共有を徹底している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いきなりの入居に不安な利用者には、しばらくの間ホームと住宅の両方の生活を提案している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム周辺は菊畑や野菜畑に囲まれており自然豊で安全な場所となっている 散歩の際は近隣の方と挨拶を交わしたり、当たり前の生活ができるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医との関係を大切にし、利用者や家族等の希望するかかりつけ医への受診の支援をしている また月1回協力医療機関の医師による往診がある 訪問歯科も必要な場合には受診できるよう体制を整えている	本人や家族が希望すればこれまでのかかりつけ医への受診支援は行っているが、現在は協力医療機関をかかりつけ医としている利用者が殆どである。体調に変化のある利用者は毎月1回の往診を利用し、往診の際には対象外の利用者でも受診できるようになっている。体調変化による通院は職員の付き添いで受診したり、週2回の医療連携による訪問看護師がホームを訪れる事で常に適切な医療を受けられるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携を結び週2回受け別々の受診ノートでその日の体調や今後のケアを共有している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご本人の援助方法に関する情報等を医療機関に提出 ご家族とも情報交換しながら職員が頻繁に見舞い、その際ご本人の状態を医師・看護師から得ている 退院後スムーズにホームにて生活が出来るよう情報提供書を頂いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所内で出来る事出来ない事を明確にし、利用者・家族・職員と情報を共有し、月1回の協力医療機関の往診の際に医師に相談をしながら支援に取り組んでいる	24時間何時でも対応可能な医師と看護師を確保した上で『重度化した場合における対応及び看取りに関する指針』に基づいた看取りを実施している。利用者の状態を診て医師や家族、職員でホームで看取りをするかどうかなど今後の方針についての話し合いをしている。看取りを希望する場合には、利用者の症状に応じたケア方法を医師や看護師が職員に指示し、ケアプランを作成して全職員が統一したケアができるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや連絡網は備えており応急手当の研修は一部の職員は受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施しており、消火器訓練も利用者と一緒に実施 夜間を想定した訓練も実施している 地震時も同様、訓練後の反省など職員で話し合い記録に残している	消防署と協力しながら年2回の避難訓練を実施しており、夜間想定や失火元を特定した訓練、災害時の避難訓練など多岐にわたった丁寧な避難訓練を実施している。 ホームの造りは全居室からベランダに出られるようになっており、ベランダにはスロープがついて車椅子でも安全に外に出られるようにしている。食品などの備蓄品は写真で示され、中身が分かりやすく表示されており、水、電化製品、発電機などを備えて数日間は日常生活ができるよう準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した介護を心がけ支援している 特に排泄への声かけには十分に配慮しプライドを傷つけないように努めている	花の好きな利用者は花と親しむなどの趣味の継続や、喫煙などの嗜好を大切にしている。職業をとおして身に着けた技術を活かす機会を設け、生きがいをもち誇りある暮らしができるようにしている。トイレ誘導時や失禁時などの声かけには特に注意を払い、さりげない声かけをして誇りを傷つけないようにしている。書類の保管や『大樹便り』に掲載する写真等についてもプライバシー保護への配慮が丁寧に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や嗜好の把握に努め、日常生活の中で表出できるよう取り組んでいる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位を追求し、その方の生活リズムや希望に合わせている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいお洒落ができるよう本人の意向を聞きながら、町内の理容室への支援をしている 御家族が定期的に馴染みの美容室へ連れ出し、支援してくださっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が出来る限り、準備や下膳など一緒に行っている 季節を感じられるよう旬の食材を取り入れ献立に取り入れている 利用者が苦手なメニュー、固い物などある場合は代替食を用意している	献立は前もって作らず、その日の担当職員が冷蔵庫の中を見て料理に取りかかることにしている。買い物は3日に1回程度実施しているが、お米は自家製であり、野菜などは法人の代表が栽培する食材を使用することも多く、季節感のある食卓になっている。利用者の好みや買い物当日の品揃えにより、刺身などを楽しむことも多くある。スイートポテトやホットケーキなどの手作りおやつをウッドデッキで楽しんだり、外食なども適宜取り入れ、楽しみながら食事ができるよう支援している。体の小さい利用者には低いテーブルを用意する等の工夫もされており、食事介助も丁寧にゆっくり行われていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量・水分量を個別に記録している また個別の食事形態を把握し、それに応じて提供している 苦手な献立等は他の献立に変えて対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に義歯と自分の歯のケア 義歯には消毒、殺菌剤を使用 またスポンジで口腔ケアを実施している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個別の排泄パターンを把握 声かけ誘導を促し可能な限りトイレでの排泄を行っている	日中はトイレでの排泄を基本としているが、夜間はポータブルトイレを使う利用者やオムツ使用の利用者もいる。オムツ使用で利用開始された方が声かけや誘導により紙パンツから布パンツになる改善例もある等丁寧な支援を行っている。尿意・便意がなくなった時でもリハビリや紙パンツにしてパターンに応じた声かけ・誘導を実施し、オムツ使用にしないケアを実施しているが、立位が取れなく介助が困難になった場合にはオムツ使用を検討する。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を朝昼夜の食事の際と10時15時のおやつとの時間と摂取量を把握し一人ひとりの好む飲料や野菜の多い食事にて対応し自然排便につながるよう努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが利用者の状態によりシャワー浴や足浴、清拭等にて対応している 個人の希望や状態により、入浴が出来なかった利用者は1号館2号館とお互いの入浴日に入浴出来るようにしている	週2回の入浴を実施しているが、各ユニットで入浴日が異なり、月曜日から金曜日までどちらかのユニットが入浴できるようになっており、希望があれば2回以上入浴も可能である。居室で着替えのできるタイヤ付シャワーチェアを備えて利用者の重度化に備えたり、足ふきマットの上のタオルを一人ひとり変えるなどの感染症予防対策などを行っている。寒い日には足浴や湯たんぽで気持ちよく就寝できるような工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのリズムを把握し安心して休息、睡眠出来るよう支援している 冬は湯たんぽを使用したり部屋の温度調節をし暖かく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に服薬のファイルを作成し職員が内容を把握できるようにしている 服薬時には本人に手渡し服用を確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯物たたみ、食事の後片付けなど日課としている利用者の力を活かした役割で生活に張り合いがもてるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望により散歩、買い物など戸外に出掛ける支援をしている また利用者の希望で墓参りなど、家族の協力を得ながら支援している	天気の良い日にはホーム周りを散歩したり、ウッドデッキでおやつを楽しんだりと日常的に外に出る機会を多くしている。アジサイ祭りや紅葉狩りなど、行事としての外出を年4回ほど実施して、ホームでの暮らしに変化と楽しみを作り出している。利用者によっては家族の協力で冠婚葬祭への出席やお墓参り、外食などの外出を楽しんでいる。また買い物など、その時々希望を聞きながらの外出支援もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週1回ヤクルトの訪問販売があり、自分で買うことを楽しみにしている利用者がある。また管理が困難な利用者には家族より預かり個別に使用を記入し報告している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人が掛けたい時はいつでも電話をかけられるよう対応している また家族からかかってくる場合もあるので、時には職員の方から声を掛けて促してみる時もある 家族からの手紙を楽しみにされている利用者もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は南向きになっており、冬は暖かく利用者にとってソファは居心地の良い場所となっている 外出困難な利用者が多くなって来ているので、リビングにひな人形、七夕などを飾り季節や生活を感じていただけるよう努めている	玄関へのアプローチはスロープになっており、車椅子や歩行に支障のある人でも安心して出入りできるようになっている。トイレや浴室は清潔感があり、利用者の集まる居間は観葉植物や花を置き、季節のお雛様を飾る等、潤いと季節感のある暮らしへの配慮が見られた。時計やカレンダーは大きな文字で見やすさへの気遣いがあり、何時でも日時が確認できるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファを置いて、くつろげるよう配置している 食堂脇には小上がりがあり、思い思いにくつろげるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が馴染みの家具やテレビを置き、花が好きな利用者には植木鉢や生花を飾り思い思いに居心地の良い様に支援している	各居室はウッドデッキに面しており、何時でも外に出られる開放的な造りになっている。それぞれの居室は使い慣れたタンスやテーブル、大切な人の仏壇、家族の写真などを置いて居心地よい部屋作りがされている。誕生日プレゼントのお花で華やかな雰囲気のある居室があったり、家族が頻りに訪れている様子を示す家族用の椅子がある居室等、それぞれが個性的に暮らしている様子がうかがえた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・浴室・トイレなどにプレートを掛け混乱のないよう工夫している		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム大樹

目標達成計画

作成日: 平成 30 年 5 月 7 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】				
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容 目標達成に要する期間
1	10	面会時には近況を報告し、その際には必ず意見、要望等を聞くようにしている。運営推進会議にご家族に出席してもらい、意見や要望などを聞く事までには至っていない。	希望や要望に応じていく中で、入居者やご家族の思いを大切にケアをしていく。	3ヶ月に1回発行する「大樹便り」にホームの今後の行事予定や運営推進会議の開催日を記載し知らせるなどの工夫をし、家族が一堂に顔を合わせる機会を作りご家族だけで自由に意見を出せるようにする。 12ヶ月
2				ヶ月
3				ヶ月
4				ヶ月
5				ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。